

文系女子も安心♪ 初めての株レポート

2017年8月30日



注目銘柄①：ひらまつ<2764>



【どんな会社なの??】

大きな事業は3つあります。

<レストラン事業>

1982年、ひらまつシェフと奥さまの2人で西麻布に開いた24席の小さなフランス料理店が出発点。連日満席の伝説のレストランとなります。その後、フレンチ、イタリアンと店舗数を着実に増やし、現在は、全国に34店舗、パリに1店舗を構えています。2017年9月、初の日本料亭を京都にオープンするということで、ひらまつが提供する和食に期待が高まっています。

<ウエディング事業>

1991年、初めてのデートもプロポーズもした思い出のレストランでウエディングをしたいという1組のカップルの願いを叶えたことがきっかけで、レストランウエディング事業をスタート。その後20,000カップル以上の願いを叶え、今では売上の4割近くを稼いでいる事業に成長しています。

<ホテル事業>

2016年には、満を持して「滞在するレストラン」をコンセプトに賢島、熱海、箱根、仙石原に3軒のラグジュアリーホテルをオープン。客室は10室前後のゆったりとした造りで、居心地のよさを追求しています。2018年には、新たにリゾート型のホテルを沖縄にオープン予定。こちらは敷地6,740坪に客室数20室程度とやや規模を大きくしたもの。さらに今後は、50室程度の大規模な都市型ホテルも開業予定で、ひらまつブランドのホテルの認知度を高めていく戦略です。

注目銘柄①：ひらまつ<2764>



【注目した理由は??】

ひらまつのホスピタリティはすばらしいものがあります。どのレストランに行っても、不快な思いをすることはまずありませんし、こちらが何を欲しているか、言葉にする前に察してくれます。たとえば、食事中にお手洗いなどに立って戻ってくると、お皿が温め直されているといった徹底ぶりです。一度、ひらまつのレストランで食事をする心地よさを体験すると、ほかのレストランが物足りなくなるほど。そのため、がっちり心をつままれた固定客が多いのも特長です。

また、すでにオープンしている3軒のホテルは、1泊2日(2名使用)で平均150,000円という高価格に関わらず、リピート率は65%。長期滞在するお客さまも多いそうです。日本には五つ星のホテルが少ないため、海外からの富裕層の旅行客が少ないと言われています。そんな中、ひらまつの展開するホテルは、キラリと光ってみえるのではないのでしょうか?そういう意味でも、今後のホテル事業の利益貢献に大きく期待しています。

わたしはひらまつの長期ホルダーであります。そのいちばんの理由は、優待の満足度が高いためです。まず100~400株ホルダーは、レストラン、ホテルを10%オフで利用できます。500株以上になるとなんと20%オフ!ひらまつのレストランは、ちょっとお高いのでこの割引は嬉しいです。また、定期的開催されている株主フェアでは、お料理&飲み物を一律の金額でいただけます。コースのお料理に合わせてセレクトされたワインを楽しめるとも満足度の高いイベントで、予約開始と同時に電話をしてもなかなかつながらないほどの人気ぶりです。

【売上のポイントは??】

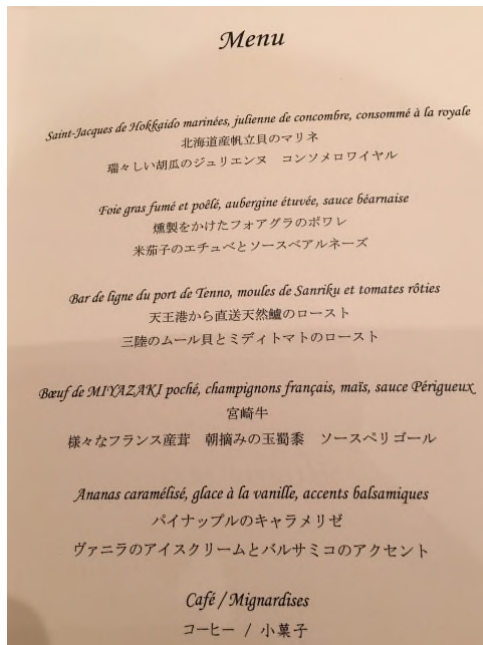
2016年、17年は、ホテル事業への先行投資もあって営業利益は減益でしたが、現在進行中の2018年の会社予想では、V字回復が見込まれています。8月10日に発表された第1四半期の決算では、売上高が前年同期比12.8%増、営業利益は同39.2%増、経常利益は同34.2%増。第2四半期の予想値からみた経常利益の進捗率も約55%と順調に推移しています。このまま進行すれば、通期予想通り、もしくはそれ以上の着地も見込まれます。



株価は、ここ1年は600円から700円の間を行ったり来たりですが、ここ5年ほど600円を割ることはほとんどないので、これ以上大きく下げる可能性は低いと思います。優待を楽しみつつ、利益の上昇とともに株価が上がってくるのを待つというのもありですし、実際に株価が上昇し始めてから、トレンドに乗る作戦もよいと思います。

ただ、財務に注目すると、自己資本比率が約20%とやや低めです。ホテル開業資金の調達で借入金が膨らんでいることもあり、今後のキャッシュフローが赤字にならないかどうかという点は注視しておく必要があります。

ひらまつ<2764>はこんな会社！



8月15日 ひらまつ レゼルヴで開催された株主フェアに参加しました！
フルコースのお料理と飲み物すべて込みで12000円

居心地のよい空間と素晴らしいサービスで大満足の笑顔です。

藤川先生のチャート解説：ひらまつ<2764>



財務安定度 ★

割安度 ★★

成長度 ★★

600円近辺を加減に下げ止まっているので、
それより大きく下げることはあまりなさそう。

レンジの下ほうで買って、上のほうに近づくときと売るという作戦、
もしくは業績回復とともに上昇トレンドを形成し、
レンジを上を抜けてくると乗っていきたいです。

